

2017年10月19日 全3頁

中国：30年間の「強国」長期構想を発表

5年に1度の党大会開幕。習近平総書記の政治報告の注目点

経済調査部
主席研究員 齋藤 尚登

[要約]

- 10月18日に開幕した中国共産党第19回全国代表大会（党大会）では、初日に習近平総書記による政治報告が行われた。この中で習近平総書記は「中国の特色ある社会主義は新時代に入った」と宣言した。新時代とは、2020年までに小康社会（ややゆとりのある社会）の全面的完成を実現した上で、21世紀半ばまでの30年間で2段階に分けて「社会主義現代化強国」を実現する時代とされた。この長期構想は概念的なものであり、具体性に欠けるが、今後、30年計画のような長期ビジョン計画を策定する布石なのかもしれない。これが政策としてある程度具体化されると、経済・社会の質的向上に向けた動きが加速する可能性があるだろう。
- 「新時代の中国の特色ある社会主義」思想というキーワードも注目される。政治報告では、「新時代の中国の特色ある社会主義」思想は、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想、鄧小平理論、「3つの代表」重要思想、科学的発展観を継承し発展させたものであり、全党・全国人民が中華民族の偉大な復興の実現に向けて奮闘する上での行動指針であり、長期にわたって必ず堅持しかつ不断に発展させなければならない、とした。同思想が、党規約の行動指針に明記されることはほぼ確実視される。
- 習近平総書記の指導思想が党の最高規則である党規約に行動指針として明記されれば、今後、習氏の発言ひとつひとつの重みが大きく増してくる。習氏への権力集中が手段であれば、その後の改革（目的）が加速する可能性がある。一方で、権力が暴走・迷走しないための抑止力については、少なくとも政治報告からは読み取ることができなかった。差し当たっての注目点は、10月25日に開催される第19期中央委員会第一回全体会議（一中全会）で選出される中央政治局常務委員の顔ぶれが、ある程度バランスのとれたものとなるか否かであろう。

5年に1度の党大会が開幕、習近平総書記が「強国」長期構想を発表

10月18日に開幕した中国共産党第19回全国代表大会（党大会）では、初日に習近平総書記が「小康社会（ややゆとりのある社会）の全面的完成の決戦に勝利し、新時代の中国の特色ある社会主義の偉大な勝利を勝ち取ろう」と題する政治報告を行った。

この中で習近平総書記は「長期にわたる努力を経て、中国の特色ある社会主義は新時代に入った」と宣言した。新時代とは、2020年¹までに小康社会の全面的完成を実現した上で、21世紀半ば²までの30年間で2段階に分けて「社会主義現代化強国」を実現する時代とされた。

第1段階は2020年から2035年までであり、社会主義現代化を基本的にも実現する。具体的には、以下の6点が基本的にも実現しているという。

- ①経済力・科学技術力が大幅に向上し、イノベーション型国家の上位に上り詰めている、
- ②人民の平等な参加・発展の権利が十分に保障され、法治国家・政府・社会が基本的にも構築され、様々な制度が一層充実し、国家統治システム・能力の現代化が基本的にも実現している、
- ③社会の文明度が新たなレベルまで高まり、国の文化的ソフトパワーが著しく補強され、中華文化に、より広く深い影響力が備わっている、
- ④人民の生活がより豊かになり、中所得層の割合が顕著に高まり、都市・農村間、地域間の発展格差や住民の生活水準格差が著しく縮小し、基本公共サービスの均等化が基本的にも実現し、全人民の共同富裕が堅実なスタートを切っている、
- ⑤現代的な社会統治の枠組みが基本的にもできあがり、社会に活気が満ち溢れ調和と秩序も備わっている、
- ⑥生態（エコ）環境が根本的に改善し、「美しい中国」の目標が基本的にも達成されている。

第2段階は2035年から21世紀半ばまでであり、中国を富強・民主・文明・調和の美しい社会主義現代化強国に築き上げるとしている。その将来像として、「(1)物質文明・政治文明・精神文明・社会文明・生態文明が全面的にも向上し、(2)国家統治システム・能力の現代化を実現し、(3)トップレベルの総合国力と国際的影響力を有する国となり、(4)全人民の共同富裕が基本的にも実現し、人民がより幸せで安心な生活を送り、(5)中華民族はますます澁刺として世界の諸民族の中にそびえ立っている」ことを掲げた。

この長期構想は概念的なものであり、具体性に欠けるが、今後、30年計画のような長期ビジョン計画を策定する布石なのかもしれない。これが政策としてある程度具体化されると、経済・社会の質的向上に向けた動きが加速する可能性があるだろう。

¹ 2021年は中国共産党創立100周年。

² 2049年は新中国成立100周年。

「新時代の中国の特色ある社会主義」思想を党規約の行動指針に明記へ

さらに、「新時代の中国の特色ある社会主義」思想というキーワードも注目される。政治報告では、「新時代の中国の特色ある社会主義」思想は、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想、鄧小平理論、「3つの代表」重要思想³、科学的発展観⁴を継承し発展させたものであり、全党・全国人民が中華民族の偉大な復興の実現に向けて奮闘する上での行動指針であり、長期にわたって必ず堅持しかつ不断に発展させなければならない、とした。同思想が、党規約の行動指針に明記されることがほぼ確実視される。

党規約は党の最高規則であり、その行動指針に明記されることは特別な意味を持つ。江沢民・元総書記の「3つの代表」重要思想、胡錦濤・前総書記の科学的発展観は、退任直前の党大会で党規約に行動指針として明記されたことからすると、2期目に入るこの時期に明記されれば、まさに別格の扱いとなる。個人名が冠されれば、毛沢東氏、鄧小平氏に並ぶが、理論と思想では思想が格上とされている。個人名＋思想の組み合わせは、毛沢東氏と同等の権威確立を意味することになる。

こうした状況になれば、習近平総書記の発言ひとつひとつの重みが大きく増してくる。習氏への権力集中が手段であれば、その後の改革（目的）が加速する可能性がある。一方で、権力が暴走・迷走しないための抑止力については、少なくとも政治報告からは読み取ることができなかった。差し当たっての注目点は、10月25日に開催される第19期中央委員会第一回全体会議（一中全会）で選出される中央政治局常務委員の顔ぶれが、ある程度バランスのとれたものとなるか否かであろう。

「新時代の中国の特色ある社会主義」思想の8つのポイント

<ul style="list-style-type: none"> 総任務は、社会主義現代化と中華民族の偉大な復興を実現し、小康社会の全面的完成を土台に、二段階に分けて21世紀半ばまでに、富強・民主・文明・調和の美しい社会主義現代化強国を築き上げることである
<ul style="list-style-type: none"> 新時代の中国の主要な社会矛盾は、人民の日増しに増大する素晴らしい生活への需要と、発展の不均衡・不十分との矛盾であり、人民を中心とする発展思想を堅持し、個々人の全面的な発展と全人民の共同富裕を不断に促進する
<ul style="list-style-type: none"> 社会主義事業の全体的な布石は、「五味一体」（経済建設、政治建設、文化建設、社会建設、エコ文明建設）であり、戦略的な布石は「四つの全面」（小康社会の全面的完成、改革の全面的深化、全面的な法に基づく国家統治、全面的な厳しい党内統治）であると明確にし、路線・理論・制度・文化への自信を固める
<ul style="list-style-type: none"> 改革の全面的深化の総目標は、中国の特色ある社会主義制度を充実・発展させ、国家統治システム・能力の現代化を推進することである
<ul style="list-style-type: none"> 法に基づく国家統治の全面的推進の総目標は、中国の特色ある社会主義法治システムを整備し、社会主義法治国家を建設することである
<ul style="list-style-type: none"> 党の軍隊強化目標は、「党の指揮に従い、戦闘に勝利でき、優れた気風を持つ」人民軍隊を建設し、人民軍隊を世界一流の軍隊に築き上げることである
<ul style="list-style-type: none"> 中国の特色ある大国外交は、新型国際関係の構築を促し、人類運命共同体の構築を促すことである
<ul style="list-style-type: none"> 最も本質的な特徴は、中国共産党の指導であり、党は最高の政治的指導勢力であると明確にし、新時代の党建設の総要求を打ち出し、党建設における政治建設の重要な地位を際立たせる

（出所）中国共産党第19次全国代表大会における報告（習近平）より大和総研作成

³ 中国共産党が①先進的な社会生産力の要請、②先進的な文化の発展、③広範な人民の根本的利益、を代表するという考え方であり、江沢民・元総書記が提唱。

⁴ 胡錦濤・前総書記が提唱。